

週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

2019年度黒のり初市開催

-12月11日(水) 松阪市一

12月11日(水)、三重漁連のり流通センター(松阪市)において、2019年度黒のり初市が開催された。

初回の出品数は、南勢地区110千枚、鳥羽地区248千枚の合計358千枚。高水温等の影響で漁期が遅れたため出品数は少なかったものの、色の黒い「新のり」らしい製品が出揃った(結果概要は下表のとおり)。

【2019年度第1回汐 共販結果】

()内は昨年実績

※高値、平均はのり100枚当たりの価格

数量	358千枚 (1,822千枚)
金額	9,270千円 (34,540千円)
高値	3,170円 [鳥羽磯部漁協 菅島]
平均	2,593円 (1,896円)

なお、12月18日現在では多くの漁場で摘採が開始されており、12月25日(水)の次回共販に向けて、県内各地で品質の良い「のり」が生産されている。

2019年度青さのり研修会開催

-11月26日(火) 松阪市一



11月26日(火)、三重県青さのり広域水産業再生委員会は、三重県松阪庁舎にて2019年度三重県青さのり養殖研修会を開催した。同研修会は、生産者、漁協・漁連、青さのり事業推進委員会および県市町等が連携し、活動内容の実施報告、意見交換を行うことで、養殖・生産技術の向上に資することを目的に開催され、生産者や漁協、県・市町担当者等約90名が参加した。

はじめに、香良洲漁協アオノリ研究会の土性好喜氏より「香良洲地区漁業の構造転換をめざしたアオノリ養殖導入の取組」についての発表が行われた。同地区は、地区漁業の中心魚種であったコウナゴやアサリの資源減少を受け、漁業の構造転換を図るための新たな取組として平成27年度からアオノリの試験養殖を開始し、試行錯誤を重ねながら3年後の平成29年度には本格的な

事業化に成功。今年6月に行われた「第69回浅海増殖研究発表全国大会」で最高賞の農林水産大臣賞を受賞したこともあり、参加者らの関心を引いていた。

つづいて、三重県漁連のり海藻課より今漁期の共販日程や生産目標について説明があり、安定生産や異物混入防止の徹底、品質向上の推進について関係者へ協力を求めた。

また、三重県水産研究所の永田主任研究員からは、今漁期の対策と水産研究所の取組についての講義が行われ、気象庁の気象長期予報データや黒潮大蛇行の動向予想を解説した上で、①水温情報を確認し、例年とのズレを把握すること、②地区によっては高水温による魚類の食害増加が予想されるため必要な対策を講じること、③潮位情報を確認し、適正な網管理を行うこと等が重要であるとの見解が述べられた。

さらに、三重県海苔問屋組合からは(株)兼宗の武士垣外社長、(株)橋本屋徳兵衛の印南部長が壇上に立ち、近年の需要動向に関する講義が行われた。2016年に“伊勢志摩サミット”で食材として採用されたことを契機に“三重県産青さのり”の知名度が向上、今後も需要は拡大の見込みであるとした一方で、さらなる販路拡大を目指すためには、大手メーカー等で最も重要視される”異物除去対策の強化“が重要であると述べ、製販一体となった対策の必要性などに言及した。

最後に、広域再生委員会の西村委員と事務局（三重漁連指導部）より、広

域浜プランの取組み内容についての報告等が行われ、参加した生産者から積極的に意見が挙げられるなど、盛会の内に幕を閉じた。

安全対策の徹底を！！
救命胴衣の着用徹底をお願いします！



平成30年2月1日から救命胴衣の着用義務が拡大し、20トンの未満の漁船に乗り組んだ場合は救命胴衣の着用が義務付けられたが、未着用の事例は未だに散見されている。12月は漁船事故による死者・行方不明者の数が最も多くなる時期であるため、第四管区海上保安本部等は、ライフジャケット着用の徹底はもちろん、より一層の安全対策を呼び掛けている。

【主な予定】
○12月25日（水）
黒のり第2回汐（松阪）

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。

※次号は、来年1月15日頃に発行予定です。